

2025年万博基本構想検討会議（第1回）議事録

（開催要領）

1 開催日時 平成28年6月30日(木) 14時から15時15分

2 場 所 プリムローズ大阪 2階「羽衣」

3 出席委員等

<有識者>

秋山委員、荒川委員、江原委員、太下委員、澤田委員、渋谷委員、玉井委員、
中谷委員、橋爪委員、増田委員、溝畑委員、宮田委員、森下委員、

<行政>

新井委員、辻委員（代理出席 宮崎副市長）、田代委員、田中委員、田村委員、
伊吹委員、野崎委員、

<経済界>

出野委員、児玉委員、齊藤委員

（議事次第）

1 開 会

- ・会議の公開について
- ・座長選出、副座長の指名

2 議 事

- (1) 「2025 日本万国博覧会」基本構想 試案 について
- (2) 意見交換
- (3) 今後の進め方について

3 閉 会

【配付資料】

- 資 料 1 : 2025 年万博基本構想検討会議設置要綱
- 資 料 2 : 「2025 日本万国博覧会」基本構想試案【概要版】
- 資 料 3 : 「2025 日本万国博覧会」基本構想試案
- 資 料 4 : 万博開催地決定までの流れ
- 資 料 5 : 今後の検討スケジュール（事務局案）

<内容>

○露口副理事

定刻になりましたので、只今より、第1回2025年万博基本構想検討会議を開催させていただきますと思います。私は、本日、司会・進行をさせていただきます、大阪府企画室副理事の露口と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

最初に、本会議を主催いたします大阪府を代表いたしまして、知事よりご挨拶をさせていただきます。

○松井知事

みなさん、第1回2025年万博基本構想検討会議の開催に当たりまして、一言、ごあいさつ申し上げます。

本日、委員のみなさまには、ご多忙な中、本検討会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

2025年、この日本で万博を開催することは、2020年の東京オリンピックの後の経済の持続的な発展と大阪が東西二極の一極として日本の成長を牽引するための新たな戦略、装置として非常に重要であると、こう考えております。

この万博の開催はインバウンドの起爆剤として、さらには、超高齢社会のモデルを世界へ発信をし、大阪を健康医療、長寿に注目したイノベーションの一大拠点へと飛躍させるものとなると認識しております。

本日は、検討会議でご議論を深めていただくためのたたき台として、まずは、私が思い描いている「試案」をご用意させていただきました。

今後、国家プロジェクトとして、閣議了解を経て立候補し、さらには、他国と内容を競い、開催を勝ちとっていくために、試案をもとに委員のみなさまの忌憚のないご意見やアイデアをいただき、地元として魅力ある基本構想を策定してまいりたいと存じます。ぜひとも2025年の大阪万博を実現したいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

○露口副理事

続きまして、第1回目の会議でありますので、ご出席の委員の先生方のご紹介をさせていただきますと思います。着席して説明させていただきます。失礼します。

まず、有識者の先生方からご紹介いたしていただきます。

一般財団法人 国際貿易投資研究所 研究主幹 江原規由委員でございます。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター主席研究員／センター長 太下義之委員でございます。

大阪府立大学 特別教授 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 観光産業戦略研究

所長 橋爪紳也委員でございます。

東京大学 高齢社会 総合研究機構 特任教授 秋山弘子委員でございます。

株式会社SD 代表取締役社長 澤田裕二委員でございます。

東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室 教授 渋谷健司委員でございます。

マッスル株式会社 代表取締役社長 玉井博文委員でございます。

慶応義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 特任教授、大阪大学 未来国際医療特任教授 中谷比呂樹委員でございます。

スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学 芸術計画学科 教授 増田明美委員でございます。

公益社団法人 大阪観光局 理事長 溝畑宏委員でございます。

慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 教授 東京大学大学院 医学系研究科 医療品質評価学講座 教授 宮田裕章委員でございます。

大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学 寄附講座 教授 森下竜一委員でございます。

次に国からご参画いただいている委員をご紹介します。

厚生労働省 政策統括官（総合政策担当） 政策企画官 野崎伸一委員でございます。

経済産業省 大臣官房参事官（商務流通・保安グループ担当） 伊吹英明委員でございます。

次に市町村からご参画いただいている委員をご紹介します。

大阪府市長会 総務文教 部会長で、和泉市長の辻宏康委員でございますが、公務により本日ご欠席のため、代理として、宮崎豊副市長にご出席いただいております。

大阪府町村長会 行財政部会長、岬町長 田代堯委員でございます。

大阪市 副市長 田中清剛委員でございます。

堺市 副市長 田村恒一委員でございます。

有識者委員として荒川委員がご到着されましたので、改めてご紹介申し上げます。

大阪市立大学 学長 荒川哲男委員でございます。

次に経済団体から、

一般社団法人 関西経済同友会 常任幹事・事務局長 齊藤行巨委員でございます。

大阪商工会議所 常務理事・事務局長 児玉達樹委員でございます。

公益社団法人 関西経済連合会 常務理事・事務局長 出野精二委員でございます。

最後に大阪府から、副知事 新井純委員でございます。

なお大阪市立大学大学院 工学研究科 准教授 嘉名光市委員、多摩美術大学 学長 建島哲委員。アドバイザーとしてご協力いただきます。JT生命誌 研究館 館長 中村桂子委員につきましては、本日欠席とのご連絡をいただいております。

次に、本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。

お手許の資料をよろしくお願いたします。

1枚目に議事次第、次に名簿、配席図、そのつぎに、

- ・資料1といたしまして 本会議の設置要綱
 - ・資料2といたしまして 基本構想試案の概要
 - ・資料3といたしまして 基本構想試案の本体
 - ・資料4といたしまして 万博開催地決定までの流れ
 - ・資料5といたしまして 今後の検討スケジュール案
- でございます。不足はございませんでしょうか。

次に会議の公開についてでございますが、この検討会議は、大阪府の「会議の公開に関する指針」に準じ、公開ということでさせていただきたいと存じます。

それでは、次に委員の皆様の中から、進行役としての座長を選出したいと存じます。如何でしょうか。

○橋爪委員

秋山委員を座長に推薦したいと思っております。秋山委員は、老年学をご専門にされて、20年にわたりまして全国の高齢者調査、追跡研究をされておられます。近年では、超高齢社会のニーズに対応するまちづくりなどにも取り組まれており、また経済産業省の「生涯現役社会に向けた環境整備に関する検討会」の座長の他、政府主催の会議にも歴任されておられます。後程、説明が予定されていますが、知事がイメージされています万博のテーマ「人類の健康・長寿への挑戦」というテーマを検討する上で、最もふさわしい方だと思ひ、本検討会議の座長として推薦させていただきます。よろしくお願いたします。

○露口副理事

ありがとうございます。

只今、橋爪委員から秋山委員が適任とのご意見をいただきました。他にご意見なければ、秋山委員をお願いしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

○委員

異議なし。

○露口副理事

ありがとうございます。それでは、秋山委員に、座長をお願いしたいというふうに思います。

それでは秋山座長、今後の会議の進行をよろしくお願いいたします。

○秋山座長

秋山でございます。まことに僭越でございますが、議事の進行係を務めさせていただきますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

今日、時間が限られておりますので、さっそく会議を進めさせていただきたいと思っております。

まず議事に先立ちまして、本会議の趣旨並びに進め方について、資料1を基に事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、この会議の趣旨、進め方について資料1「万博基本構想検討会議設置要綱」に基づき、ご説明をさせていただきます。座って説明をさせていただきます。

まずこの会議の設置目的ですが、第1条をご覧ください。

この検討会議は、2025年万博を大阪に誘致するための基本的な構想をとりまとめるにあたり、行政、経済界、有識者のみなさまから、専門的見地からのご意見を幅広くいただくことを目的として、大阪府が設置いたしました。

第2条は、所掌事務です。

この検討会議は、何かを決定するというものではありませんが、幅広い視点から、2025年万博を大阪に誘致するための基本的な構想に関する事、万博誘致に関して必要と認められることについて、忌憚のない意見交換をお願いするものでございます。

第4条では、執行役として座長を置くこと。

第5条では、会議の運営としまして、第2項にありますように、幅広い視点にたった意見交換をしていただけますよう、必要に応じて、ゲストスピーカーなどを招くことも予定しております。

第6条は、必要に応じて、部会を設置することとしております。

最後に第7条。事務局は、大阪府企画室政策課で、連絡調整などを担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

で、委員という皆さまとしましては、計26名の皆さまで構成しております。
どうぞよろしくお願いいたします。

○秋山座長

はい。どうもありがとうございました。

ただいま説明いただきました、本会議設置要綱第4条第2項に基づきまして、座長の職務代理者としての副座長をあらかじめ指名したいと思います。この間、大阪府の万博誘致の取組みに対しまして、昨年度開催されました「国際博覧会大阪誘致構想検討会」において座長を務められ、この間の経緯をよくご存じでいらっしゃる橋爪委員を指名させていただきたいと思っております。橋爪委員どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に入りたいと思っております。

議題1は、『2025日本万国博覧会』基本構想 試案についてでございます。

それでは、資料2、3、そして4について、事務局から説明をお願いします。試案に対してのご意見は、後ほどまとめておうかがいたいと思っております。

○事務局

それでは、お手許の資料2と3。これは「2025日本万国博覧会」基本構想試案の本体と概要版になっております。本日は、試案の本体は45ページの部分が冊子となっておりますので、資料2の概要版をご覧くださいながら、ご説明をさせていただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。座ってご説明させていただきます。

この概要版には、それぞれ対応する本体のページ数も掲載しておりますので、今後本体をご覧ください際にもご活用いただけたらと考えております。

それでは資料2、試案「概要版」をご覧くださいながら、ご説明をさせていただきます。

この試案は、今後、委員の皆さまにこの会議で議論を深めていただくためのたたき台として、知事が考える具体的な万博のイメージを取りまとめたものでございます。

全体の構成としては、上から①基本概要、②事業展開イメージ、③理念の継承、④事業推進、⑤その他の、5つの項目でまとめられております。

それでは、資料「I基本概要」についてご説明させていただきます。

万博開催に向けて、知事の考える「問題意識」です。この21世紀の健康の問題は個人の問題をこえて、まさに人類社会全体の課題であること。そして高齢化の波は、今後発展途上国にも波及すること。そして、こうした人類の前に次々と出現する「解決すべき課題」に対して、社会を変容させる“新しい国際博覧会”が必要であり、長寿社会を経験する日本において、ライフサイエンス分野のネットワークや幅広い中小企業の高い技術力を有するこの大阪こそ、新しい国際博覧会を開催するのにふさわしいと考えているということをまとめております。

次に、その右側「基本理念」です。いま申し上げました問題意識を踏まえた「基本理念」として、21世紀が4半世紀を迎える2025年に、人類にとって根本的な課題である「人類の健康・長寿への挑戦」をテーマに博覧会を開催することにより、大阪において、世界から知を集め、人類社会に貢献することを掲げております。

次にその下、「名称」をご覧ください。「名称」については、「日本」が一丸となつて、大阪で再び国際博覧会を開催するのだとの意思表示を込めまして、2025 日本万国博覧会としております。

次に、右をご覧ください。「テーマ」は、「人類の健康・長寿への挑戦」です。さらに、広く世界で課題共有できるよう、健康にかかわる要因としまして、科学技術、文化の多様性など、4つのサブテーマを設定しております。

最後に「開催概要」でございます。「開催期間」は、2025年4月～10月までの6か月を設定しております。

次に「会場」としましては、本試案では、夢洲地区を想定して作成しております。しかし今後、必要な面積確保やアクセス条件等、他の開催可能地区との比較などを踏まえて、検討・決定する必要があると考えております。

現在、大阪府・大阪市では、「夢洲を軸とした大阪市内ベイエリア」を候補地としてIR（統合型リゾート）の立地促進に取り組んでおり、夢洲地区の場合の会場としての「利用可能面積」としましては、資料にも記載しておりますが、その前提としましては、「IR用地の面積は、未確定ですが、早期利用が可能な約30haは最低限使うであろう」と仮定した場合として、資料には最大160haと想定しているものでございます。

夢洲地区を国際博覧会の会場とした場合、IR計画との整合により、国際博覧会としての活用可能な面積は変わる可能性があるものとしてご覧ください。

次に「参加国等」、「目標入場者数」です。「参加国」については150か国・機関。「目標入場者数」につきましては、最低3000万人以上と設定しております。

続きまして、表のまん中部分、「II事業展開イメージ」です。

事業展開のコンセプトとしましては、資料にございますように、世界から“知”を集め、博覧を超えた「参加・体験」によって、“人類の健康・長寿への挑戦”に向けた行動を呼びおこす「交流の舞台」としたいと考えております。

それにより、資料の中ほどに、右に上がる図を描いておりますが、世界的規模での「健康への挑戦」を誘発し、「健康・長寿社会」の実現をめざすものでございます。

次にその下側、会場の構成をご覧ください。「会場の構成」としましては、「夢洲地区」を想定した、会場の構成や会場展開について図を右下部分に記載しております。これは利用面積も含めて、あくまでもイメージ図でございますので、参考としてご理解ください。

現状としましては、夢洲は北側部分、このイメージ図で言いますと、上側部分は、概ね埋立てが完了しております。南側部分、図面で言いますと下側部分は、埋立てが完了していない状況でございます。今後の埋立ての状況やIRとしての活用などにより、会場の構成は変わることになるものとしてご覧ください。

最後に、この会場につきましては、主会場以外にも、世界との多様なネットワークによって広域展開もめざすものでございます。

次に資料の右側、「会場の展開」をご覧ください。会場の展開においては、各施設をぐるぐると巡る中で、世界の知恵に驚き、世界の人とつながり、日本の未来技術を体験する中で、“心も体も健康になる博覧会”をめざしております。

次にその下側、「主要な施設・事業の展開」をご覧ください。これは、現在、府として考え得るイメージとして作成したものです。

例えば、日本ゾーンでは、健康・長寿社会をつくる日本からの提案として、日本の未来技術を体験でき、超高齢社会へのモデルを発信していくものなどを考えております。

そしてこれらの開催前の活動としまして、その下側をご覧ください。

「世界の国々、国際機関、世界の人々に対する、開催前の活動」を展開することによりまして、テーマへの理解促進と賛同、博覧会に向けた提案づくりなどを促進していければと考えております。

次に、「Ⅲ 理念の継承」です。資料、左下をご覧ください。

理念の継承としましては、例えば、まちづくりにおける博覧会成果の活用やテーマに関連する国際的な関係機関の誘致、そして博覧会開催によるムーブメントを後世に誘発させるための取組などをあげております。

次に、その右側、「Ⅳ 事業推進」でございます。

事業費につきましては、愛知万博の例などを参考に、会場建設費は1500～1600億円程度、運営費は800億円程度と試算しております。運営費は、原則入場料等で賄うものと想定しております。

この金額は、あくまで具体的な施設計画などがございません現時点での試算額でござ

ございますので、今後、精査をしていく必要のある数字であるということをご了解いただき、ご覧いただきたいと思います。

「開催までのスケジュールイメージ」もまとめております。

スケジュールについては、このあと資料4として、「万博開催地決定までの流れ」をご用意させていただいておりますので、のちほどご説明させていただきます。

最後に、「Vその他」です。ここでは会場候補地の概要、観客輸送、宿泊等を検討するとともに、我が国における開催効果をまとめております。

全国への経済波及効果としましては、試算値として、約6兆円ということを出しております。

以上、簡単で恐縮でございますが、試案の説明をさせていただきました。
続きまして、資料4をご覧ください。

資料4は、「万博開催地決定までの流れ」でございます。

この「万博開催地決定までの流れ」につきましては、今後のこの検討会議での検討スケジュールに大きく影響してくることとなりますので、この機会に少しお時間をいただきましてご説明させていただきたいと存じます。

図をご覧ください。この資料は、他国が7月に登録申請、立候補を行ったとの仮定した場合を想定してまとめております。その場合、6か月でBIEの登録申請が締め切られますので、年内に閣議了解と立候補が必要となります。

そのため、大阪府としましては、知事の試案をもとに、この検討会議で存分にご議論いただき、いただいたご意見を踏まえ、大阪府としての基本構想案を策定、年内に閣議了解をいただき、立候補をめざしてまいりたいと考えております。

その後としましては、国としての構想を策定し、2年後の2018年のBIE総会において投票、開催地が決定するという流れになると想定しております。

登録申請後のスケジュールにつきましては、あくまで直近の国際博覧会での例を参考に想定したものでございますので、参考にご覧いただけたらと思います。

以上、ご説明をさせていただきました。

○秋山座長

議題2に入ります前に、齊藤委員が所要の為に退席をされます。

○齊藤委員

すいません、今から役員会がございますので失礼しますが、ちょっとだけ感想だ

け、よろしいでしょうか。

○秋山座長

はい、どうぞ。

○齊藤委員

このテーマですが、「悪くはない」と思います。ただ、英語になおした時に、これ長いんじゃないのかっていう気がしないでもありません。

「健康・長寿」というと、中高年のイメージがあるんですね。こういう万博を成功させる為には、やはり子供たちもびっくりする、喜ぶコンセプトを作らなければいけないんじゃないかと思います。それともう一つ、ここにも掲げてある「主会場以外の世界との多様なネットワークにより広域展開に繋がります」との考え方に賛成です。大変いいことだと思います。特にオール関西での視点で別にパビリオンをあちこちに沢山つくれということではなく、IPSが京都にあり、神戸に理研があるのだし、そういうところとうまい連携が取れて、パビリオンではなく行ったらそこにも驚きがあるという考え方がいい。もう一つは、経済界からの立場から言いますと、お金の問題がどうも最後まで引かかってくると思います。ですので、極力費用のかからない方向というのを最初から念頭に置いていただければと思います。

○秋山座長

どうもありがとうございました。

では、続きまして議題2は、「意見交換」でございます。先ほど事務局からご説明いただきました「試案」に対しまして、委員の皆様からご自由にご意見をいただきたいと思います。本日は、初めての会合でブレイン・ストーミングのような形でございますので、ご自由にどの点に関しましてもご意見いただければと思います。最後にまとめるということはいたしませんので、どんどんいろいろな意見を出していただきたいと思います。

有識者委員の先生方から順番にお願いいたします。時間は限られておりますので、誠に恐縮ではございますが、おひとり2分程度でお願いいたします。本日ご用意いただきながら、ご発言いただけなかった部分につきましては、事務局にお寄せいただきましたら、委員のみなさまと共有させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、荒川委員からお願いできますでしょうか。

○荒川委員

大阪市立大学の荒川でございます。このテーマに関しましては、非常に私はいいなと思っております。日本は世界一の長寿国でありますし、世界一のそういう健康寿命も長い国だと。その中で、大阪は結構悪いですね。ワースト5に入っているぐらい

なんですね。世界から見ると高いんですけども。ですから、日本の中で大阪で開催するというテーマにしては、非常に適切なのではないかというふうに感じております。

先ほど、齊藤委員もおっしゃいましたけども、やはり子供が驚くような企画というのは必要じゃないかなと思って、これ思いつきですけども、例えば建物の中に入ると、人体のちょうど体の中に入ったようなですね、昔、「ミクロの決死圏」という映画がありましたけども、そういうふうな中に入って、実際、体を勉強する、あるいは病気、あるいは健康を勉強するという子供が喜ぶようなテーマもひとつありかなというふうに思っております。

○秋山座長

ありがとうございました。

続きまして、江原委員、お願いいたします。

○江原委員

私、上海万博に関係しておりまして、その経験に基づいてお話しさせていただきます。今、齊藤委員いわれたように、私も、このテーマを見た時に、中高年のイメージがあると思いました。テーマそのものは非常に良いと思いますが、もっと若者にアピールができ、国際社会の共感が得られるようなイメージをテーマに醸し出せないか、そんなことを考えました。それで、思いついたのが、今、世界の会議やフォーラムなどでよくテーマとなる“第4次産業革命”と関連付けてみたらどうか、ということでした。“第4次産業革命”とは総称で、各国でいろいろな呼び方がされています。

例えば、日本では成長戦略、ドイツでは、“産業4.0”、中国では、“中国製造2025”、韓国では創造経済、それから、米国、イギリス、フランスにもあります。その多くが、2025年頃を目途に一応の成果をあげようとしています。

第4次産業革命とは、具体的に言うと、モノ・インターネット、ロボット、人工知能、クラウド、IPS細胞、ナノ、バイオ、IT・インターネット産業など21世紀の次期産業、別の言い方をしますと、未来産業の台頭にあるといえます。なにより、健康や長寿にも大いにかかわっています。第4次産業革命との関連性をテーマにもたせれば、中高年のイメージも払拭でき、若者にもアピール出来き、国際的にも大いに関心をもたれるのではないかと思います。第4次産業革命をキーワードとして、例えば、テーマの修飾語とするのもよし、サブテーマで強調するのもよいのではと思います。今、中国の天津で、世界の政財界のトップが一堂に会し、世界の主たる問題を話し合うダボス夏会議をやっています。そのテーマは第4次産業革命です。世界に浸透しつつある第4次産業革命の中で、健康と長寿をどう位置づけるのか、どう達成してゆくのか、2025年の大阪万博は世界に大きくアピールできるのではないかと、今、テーマのご説明を聞いていて感じた次第です。以上です。

○秋山座長

はい、ありがとうございます。若者もと、三人の方からご意見がありました。続きまして、太下委員お願いいたします。

○太下委員

文化政策を研究しております太下です。ちょうど今、実は「クリエイティブ・エイジング」という論文を書いておりました、そういった観点からすると、まさにこの「健康・長寿」というテーマには、大変共感するところです。

この分野について調べていて感じたことが、日本には高齢化と言いますか、「老い」というものに対する独特の文化があるということです。例えば、能楽の世阿弥は、「風姿花伝」というテキストを残していますが、ここで言う「風姿花伝」の「花」というものが、「老い」の文化そのものなのですね。その文章を引いてみますと、「老木になるまで、花は散らで残りしなり」とあります。要は年々稽古を積み重ねていくことによって到達できる境地というものが、そこにはあるということです。文化の功績者を、日本では人間国宝として顕彰しています。この「人間国宝」という考え方は、無形の文化財を表彰する制度であり、実はこれは日本発の考え方なのですが、この考え方は、やがてユネスコも取り入れられることにもなります。つまり、日本では「老い」に対する尊敬、そしてこれを大切に思う独特の文化が確実にあるということです。このように考えると、この万国博覧会を契機にして、日本独特の「老い」の文化というものを世界に発信していく、いい機会になるのではないかと思います。かつて、明治時代には岡倉天心の「茶の本」であるとか、新渡戸稲造の「武士道」であるとか、これらが英語で世界に発信されていったことで、日本の独特の哲学・精神が世界に伝わっていった訳です。こういった意味で新たな日本の独自の文化である「老いの文化」というものを世界に発信していく大きなチャンスになると考えます。再三出ております子供とか若者に対するアプローチに関しては、「クリエイティブ・エイジング」の活動を展開する中で、高齢者と例えば子供たちが一緒に文化プログラムをやるとか、いろんな形で展開は可能ではないかなというふうに考えております。簡単ですけども以上です。

○秋山座長

ありがとうございました。「老いの文化」というお話をさせていただきました。では、橋爪委員は後ほどお願いいたしまして、澤田委員、お願いいたします。

○澤田委員

はい、澤田でございます。私は1985年の科学万博から30年以上、博覧会の企画プロデュースをしております。博覧会の専門家の立場から、意見を述べさせていただきます。今回の博覧会を考えると、大きく分けて3つの視点が大事だと思っております。1つ目の視点は、先ほど他国が立候補する可能性があるとの話がありまし

たが、招致活動に勝たなきゃなりませんので、どう勝っていくのかということが第一だと思います。2つ目は大阪・関西、日本の資産をどんどん出して、どのように発展させていくのか。3つ目は新しい日本の国際社会におけるリーダーシップをどう顕在化させていくのか、この3つが大きな視点だろうと思っております。

1つ目の視点でございますが、招致を成功させるという意味で言うと、3つのポイントがありまして、1つは、1994年にBIE総会が開かれて、それまでの20世紀の旧来型国際博覧会が科学技術の発展を共有する場でしたが、21世紀の国際博覧会は、人類社会と地球規模の課題解決の場であることが決議され、大きくクローズアップされました。そのスタートが愛知万博で、科学技術万歳ということだけでは、なかなか国際博を招致することはできない訳です。これをどのように今の考え、国際的に発信していくのかということが、一つ重要な問題であります。もう一つは特に高齢化の問題が引っかかるとは思いますが、今、BIEは169カ国、どんどん加盟国数が増えています。ほとんどが後進国です。後進国が持っている課題も含んで、彼らが参加する意義を感じていただかないと一票いただけませんので、この多くの方たちに共鳴していただくようなテーマにしなければ、それは先進国だけの問題ですよねって言われてしまうと、勝てなくなってしまうので、ここを世界の各国とどう共有していくのかということが、すごく重要です。それからやはり国際条約に基づく博覧会がありますので、国際機関、特に健康を定義し推進しているWHOをはじめとした国際機関との連携・連帯と支持ということが、非常に重要な要素になってくる。以上の3つのポイントが招致の段階で大事だろうと思っております。

それから日本、関西の大阪の発展という意味で言いますと、20世紀の博覧会というのは、未来を見せる博覧会でしたが、21世紀の博覧会は未来に挑戦する博覧会になっています。つまり、医療中心に大阪・関西が持っている強みを活用して、日本が抱えている少子・高齢化の課題に対して、博覧会に向けた挑戦を加速していき博覧会を社会実験として捉えて、新しい技術とか、仕組みを社会に実装して可視化していく。それを国内外に発信していくというような視点がすごく重要であります。愛知万博の開催で、環境社会が日本の中で非常に進みました。同じような形が今回の博覧会でも起こればいいなあと思っています。愛知万博は2200万人来ましたが、リピーターを差し引いても1600万人が来場しています。国民の12%の人が会場にいった来て、共有体験をしています。そこで大きくみなさんは感覚を変えたと思います。国民の12%、今度は15%ぐらいが来場する中で、具体的な社会変革を実現できる場として存在しているだろうと思っております。健康の問題は社会変革が非常に重要だと思っておりますので、それをどう活用していくのかというのが二つ目。

それから三つ目の視点は、国際社会からの期待ですが、近い将来、健康の問題は人類社会が直面する重要な問題だと思います。それをいち早く人類の課題であることを日本から強調して、世界に先駆けて問題提起していく。そして、その解決方法を日本から提案するという新しいリーダーシップを示すべきです。それから、やや違う側面ですが、日本は、国際博覧会活動がものすごく進んだ国で、この50年間に5回も国

際博覧会を開催している訳ですが、こんな国は世界にありません。その経験から日本が提案する21世紀のスタンダードとなる新しい国際博覧会とは、どういうものなのかということが、国際社会から注目されていると思います。そういった部分にきちっと答えていく構想というものが、日本に求められているじゃないか、この大阪にも求められているのではないかというふうに思っています。以上です。

○座長 秋山委員

はい、国際博覧会のご専門の立場からですね、何が実現する為にポイントであるか、新しい博覧会を提案すべきだということについてお話しいただきました。

続きまして、渋谷委員、お願いいたします。

○渋谷委員

私は、専門は、万博というのは全然知らないのですが、基本的には、世界の医療の政策の担当をしています。最近、ここ3週間くらいは、ジュネーブとボストンとマニラとバリ、昨日バリから帰ってきたんですけど。日本の医療に対する世界の期待というのは本当にすごくて、直近の伊勢志摩G7でも保健医療というのは地球規模課題の本当に大きなものの一つとして日本から発信した。ということで、テーマとしては、健康・医療というのは、まさに僕は適していると思います。

ちょうど昨年度2035年、20年後の保健医療のビジョンを出すということの、厚労大臣の私的懇談会の座長を務めたんですけど、その時のキャッチフレーズが「日本は、健康先進国だ」と。長寿を入れなかったのは、イメージとして長寿というのはちょっと古臭いのと、やっぱり健康先進国へ込めた思いというのは、人もシステムも働いている人も、生き方も社会もすべてが健康だ、そういうようなイメージで健康先進国としたんですけど。まさに、この大阪の万博というのは、大阪が本当に健康であってほしい。それは、別にひとえに健康寿命だけではなくて、社会も制度も、働く人の生き方も働き方も含めて、暮らし方も含めて、そうしたものが健康であってほしいというものをを出していただければと思います。

2035年段階で3つだけビジョンを出していますけれども、1つは価値のある医療をやっていきましょうと。2つめが、ライフ・デザインということで、自然に健康になるまちづくりとかそうしたものも含めて、自分で健康をつくっていきましょう。それから3つめが、澤田先生がおっしゃったグローバルという視点なんですけど。まさにグローバルというと、ともすると外に見せる、外に出ていくというイメージがありますけれども、自分を振り返って、大阪府でも今後10年間改革をしながら、それが本当に社会に世界に通ずると、そうしたものを外を見て、中を直すということで。やはりそのグローバルに対するということは、自分自身を見返すということですので、そうした機会もとらえながら、まさに社会システムとしての保健医療をつくっていくということを見せることそのものがまさに万博への日本のバイブルを出せるんじゃない

いかということをおもっておりまして、それを期待しているところでございます。

○秋山座長

どうもありがとうございました。

続きまして、玉井委員、お願いします。

○玉井委員

先ほど江原委員が上海万博のときの日本館の館長をされていたとおうかがいしまして、私、その頃は、日本産業館というのがあって、堺屋太一先生が総合プロデューサーをしておったんですけども、彼に頼まれて、その玄関を登るロボットを制作いたしました。そんな経験を通じて、万博というところに参加したんですけども、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。何が素晴らしいかといいますと、そこで出会った人たちが素晴らしいというふうに思います。そのことによって、私はいろいろな人のネットワークが広がりました。そのあと、万博が終わったあとに、介護ロボットというものに挑戦することになりました。やっと今月から発売をすることになったんですけども、4年間くらいがんばって、介護ロボットを世界に先駆けてつくりました。

ご存じのように、この関西の地は、i P S細胞ができたり、ゲノムの解析とかでも名をはせてますし、医療技術は世界のトップクラス。忘れてならないのは、私の専門のロボットも世界でトップクラスの集積された地域であります。ぜひ、こういうものを活かして、健康×（かける）ロボットみたいなテーマで、もうロボットだらけ、健康だらけの会場にしたらどうかなというふうに思います。

それと1つ、澤田委員がちょっとおっしゃったこととかぶるんですけども、今までは一つの機関であったり、一つの地域であったり、パビリオンであったりというところに集約して、いろいろな物事をやっておったわけですけども、今、この情報化社会の中で、そういうことを取り払ったら、どうなるんだと。例えばその時間軸も、会期中だけでなく、その前の準備期間も含めて、万博の一部とする。あるいは、あとのケアも一部とする。エリアも、テーマパークがあるエリアだけでなく、「うめきた」であるとか、いろいろな地域が集積していますので、そういうことの連合で迫ったら、経費もおさえられるのかなという感じがします。つまり、私がいいたいことは、このチャレンジ、そういうことにチャレンジしていく行為自身が、大きな万博のテーマになりうるのかなと、そういう感じがしました。よろしくお願いします。

○秋山座長

ありがとうございました。

続きまして、中谷委員、お願いいたします。

○中谷委員

まず、私の今の気持ちを一言でいうと、「わくわくする」という感じです。素晴らしい構想案をお聞かせいただき、ありがとうございます。それで、さらにこれを進めるために、どうしたらいいのか、少し考えてみたのですが、私は、3点、コンテクト・文脈、中味とプロセス、この3点について、私見を述べさせていただきます。

まず、コンテクトです。2025年、どんなふうになっているのかと言ったならば、大阪万博が行われた時の我が国の平均寿命が70歳。今、世界の平均寿命が70歳です。まさに、そこから進歩して、大阪が何をするのか、それが問われる時代です。それから2025年は、COP21、パリから10年。それから、国連の新しい開発目標SDG2030年まであと5年で、さあこれからどこまで進んで、どういうふうになるのか。こういう意味で、2025年は非常に重要な年です。そして、その時に耐える万博の企画をする。将来を見据えた企画をしようじゃないかということだと思います。その意味で、今の企画は2018年、2019年では非常に素晴らしい企画です。ただ、2025年までもうちょっと広げていこうとすると、これからの基本構想検討会議の大事な宿題になると思います。

そこで2番目です。中味です。中味については、ぜひ、新しい視点としては、我々は高齢化とっているわけですが、その行き先が、少子化であり人口減少です。こういうところまで考えている国はまだあまりないと思います。そこは、私は言ってもいいんじゃないかと。子どものことをおっしゃられた委員がおられましたが、やはり子どもも高齢者も一緒に住めるような、という視点が必要に重要なポイントになるんじゃないかというのが2番目です。

それから3番目。「挑戦」という言葉が沢山使われています。なんとなく、悪いものをやっつけるみたいな感じなんです。挑戦とともにやっぱりこれは「機会」なのです。新しい産業を築き、新たな人をつくり、新たな技術ができる、こういう様々なオポチュニティ (opportunity) なので、挑戦と機会を一緒に、カップルで言われたほうがいいのではないかと私は強く思います。

それから、私がこの構想の中で非常に印象に残ったのが「社会を変容させる新しい万博」、これは非常に新鮮なアイデアなので、これをぜひ企画委員会でさらに進めて、知事のご要望に沿うような、すばらしいアイデアを考えていきたいと思います。

それから3番目、最後ですが、プロセスです。はたして、万博といのは10年先のイベントなのでしょうか。そこに向けて、私は今からやることがあるし、また、やらなければならないことが沢山あると思います。例えば、今、日本のサービス産業の高齢者対応。日本の方は普通に思っているのですが、世界から見るととんでもない、すごいことをやっていることがたくさんあるのです。例えば、この前ロンドンのバンカーとしゃべっていて、日本の銀行のことをお話ししました。窓口の人にみんな認知症サポーターの資格をとってもらおうようにしている。こんなことを、体系化してやっている銀行なんか、他の国にはどこにもないですよ。それから、関西のある自治体と銀行とがMOUを結んで、何度も何度も窓口で困難を感じる方は、非常にうまく、福祉事務所の方に相談されたらどうですかというふうに誘導しているのです。こういうソフ

ト面ですばらしいものがあります。それを私たちはあんまり認識していないだけなので、こういうことを今から発信をし、あるいは外に打って出れるように、サービスとしてうまくパッケージをしていく。こういう産業が今からでもできますし、これを、プロセスとして積み重ねることにより、万博が一部の方々のイベントだよねというのではなくて、市民の方が、あるいは産業界の方が今から参加できるようにすれば、すばらしい万博になるだろうと、私は思いました。こういう意味で、もし私にできることがあれば、大いに貢献させていただきたいと思います。

○秋山座長

ありがとうございました。

続きましては増田委員、お願いいたします。

○増田委員

私は選手のところ、大阪国際女子マラソンを競技人生の節目節目で走り、たくさんの応援を頂きました。それから今は大阪芸術大学の方で教えていまして、1年の内4分の1くらい大阪に住んでいます。大阪大好きですので、この愛をいろんなかたちでお返し出来ればいいなと思っています。ミラノ万博を去年見てきましたので、またその時感じたことなどは部会などで紹介させていただきます。今回、「人類の健康・長寿への挑戦」という素晴らしいテーマで、他の委員の皆さんも言っていましたけれども、やっぱり日本というのは高齢化社会を迎え、健康・長寿のトップランナーであると思うんです。これからいろいろな国が追いかけてくる訳ですから、この万博を通して「健康・長寿」のヒントとなるようなことを発信できれば素敵だなと思います。テーマはいいんですけど、サブテーマのところがちよっと抽象的かなと思いました。もう少し具体的に書かれた方がいいのではないかと思います。例えば、『健康づくりができるまちづくり』というふうにしてみたら、イメージも出来ると思います。会場づくりにしても、歩きたくなるような会場、また健康になるような会場ということを意識することで、緑が多くなるでしょう。また、路面なども人の足にやさしいウッドチップですとか、ゴムなどを使われて足にやさしいものになります。またバリアフリー化などのことを考えると、先ほど玉井委員も言われていましたが、ロボット技術を生かして電動の車いすで自由に行動できるような会場なんかになると、そこが未来の街のお手本みたいになっていくのではないかなと思います。

それからもうひとつ、大阪のいいところには『笑いの文化』があります。私の隣の溝畑さんもユーモアあふれる方なんですけれども、やっぱり健康といたら、笑いは欠かせないと思うんですね。それを上手に取り入れて、例えば、吉本新喜劇などの協力を得て、笑いのシアターなど常設でできたら、ともひそかに考えてますので、またいろんな場面でお話させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○秋山座長

具体的なご提案、ありがとうございました。
続きまして、溝畑委員、お願いいたします。

○溝畑委員

私は実は2002年のワールドカップの招致を1995年から6年、韓国とメキシコと激しい戦いをしまして、その時、閣議了解を取りながら、すごい招致合戦をやって、世界の各国の理事をまわって、やりまして、結構競争って激しいなど。

それから2020年東京オリンピック招致のですね、実は一回負けまして、実は石原都知事が2011年、東日本大震災のあと、日本をもういっぺん再生するには、もういっぺん東京を元気にせんといかんという非常に大義があって、それが結局、東京オリンピックをもう一回やろうやという空気になったんですね。言いたいことは、いずれもこの前回、大阪ってオリンピックで負けた、そのとき、私はたまたま2000年招致をやっていたので、あの時の空気感を言うと、大阪でやっているということではなくて、日本を大きく再生していく、世界の中でもういっぺん日本を元気にする大きな大義のストーリーの中に、まずこれを位置づけるということがすごく大事で、その中でなぜ大阪なんですかという、大阪府民・市民だけではなく、国民の皆さんに元気にしてもらうことをやらないと。だってこれ閣議了解プラス、セットで招致合戦になった時に、たぶんその大義がないと、今日は経産省、厚労省が来られてますけど、国挙げて応援してやるという勢いが出ないのではないかと。ライバルがパリだということは、パリはおそらく2024年のオリンピック終わって、その勢いで25年行ってやろうという国家戦略で来そうだなと感じがします。そういうちょっと敵の様子も見ながら、どうやって優位性を出すかというところの戦略を持ってやらないといかんというのがひとつですね。

二つ目が、すごくテーマがいいなと思ったのが、この間の600兆プロジェクトの中に上がっています、スポーツ産業、健康医療産業、観光、食、全部、いままさに600兆伸ばすための成長戦略のエキスが全部入っています。という意味で、国家の成長戦略にピタッとハマっているなということ、まさに大阪がこの分野で非常に今後の戦略の中で非常にプライオリティが高い分野であるということ。

もうひとつ最後に私が付け加えたいのが、やっぱり万博はどうしてもガキのころ、歌を歌いながら、とにかく毎日「万博に行きたい、行きたい」と言っていた。万博に行くというのは、国民的高揚感があって、あの時の高揚感って、やっぱりあそこに夢がこもっていたんですね。もうひとつやっぱり私がここで思うことは、もう一回やっぱり大阪って、関経済の減速というのは、はっきり厳しいです、正直、20年、30年前を比較して。もう一回、ここで大阪が復建していくんだと、府民・市民上げて。それで西日本を引っ張っていくんだと。まさに知事が冒頭おっしゃった、二極の一極を担って、もういっぺん日本を上げていくんだという、地方創生のいわば一つの起爆剤として、そういう意味では、大阪が真ん中になって、各地方のショーケース的な位置づけもしていくことも必要なのかなというふうに思いました。都市政策、成長戦略、

観光、いろんな分野を考えて、やはり25年にみんなが元気になるという意味で、何か突き抜けたものを考えると、これは日本の為にも20年のオリンピックのレガシーがまさに詰まっているという意味でも、是非やっていただきたいなというふうに思います。

○秋山座長

私たちの元気が出る提案がございました
続きまして、宮田委員、お願いいたします。

○宮田委員

大阪が盛り上げていく、なぜ大阪なのか、これまさにおっしゃっていた通りで。もうひとつ、先ほども何人かの委員の方もおっしゃっていましたが、なぜ大阪万博か外側の世界から説得力を出すことも必要なと思います。例えばパリ、移民、EUのイギリス脱退で揺れるパリが、人類の融和をうたって、いまこそ博愛だと、こういうストーリーを掲げた時、我々はそれに勝てるのかと。万博本来の先ほどの価値、おっしゃっていましたが、ここに来たときにその人たちの価値観が変わると。夢がある、高揚感がある、ICTで全ての情報が繋がっているけれど、ここに来て体験する。ここに何の意味があるのかと。こういうものを打ち出す必要があると思います。

今回、設定いただいたテーマ、それに対する非常に大きな可能性は、私は持っているかなと思います。ひとつは先ほどからおっしゃっていた、第四次産業革命、文科省がソサエティ5.0とか、あるいは人類の文明を超える第三の波、農耕社会から来て、農業革命、産業革命で情報革命、言葉を変えながらICT、インフォメーション、コミュニケーション。おそらくこの完成、最終的には私は民主主義自体を変える、一つの人類の文明を変える流れになると思うんですが。おそらくこの辺りの完成が、2025年あたりに来るんじゃないかと。これと重ね合わせるのと、もうひとつは、先ほど中谷委員から出ていた、少子高齢化、人口減少、経済成長の鈍化。必ずこれから先進国、あるいは全ての国がぶち当たるような壁に日本が一番最初にぶち当たっていると。2025年問題といわれているんですが、実際そこがゴールではなくて、むしろ谷であると。そこに向けて日本の需要が増大して、医療に関してはバブルになるんですが、そこだけを目指にするとその後、社会保障に押しつぶされるような暗黒の時代が来ると。2025年に我々は、その問題を解決するだけでなく、その20年以上の人類に対する課題解決、少子化、高齢化、人口減少、これも数十年で解決できないので、この解決を世界に示しながら、新しい文明の可能性を見せると。これがおそらく万博のテーマにも重なってくるんじゃないかなと思います。

そういう意味では、このいただいたテーマでいくつか提案があって、ひとつはテクノロジーだけではなくて、社会システムだろうと。この大阪が世界一健康な都市になって、そしてそのショーケース、先ほど街並みとかありましたが、これを世界に示していく、これが説得力になりますし。あるいは子どもたちのことも考えると、長寿

だけではなくて「well-being」。ちょっと古い言葉ですけども、魅力的な生活を追求する中で自然に健康になっていくと。新しい健康感というのを社会に対して示すというのが、この万博の中の価値基準になるかなと考えています。

○秋山座長

ありがとうございました。

続きましては、森下委員、お願いいたします。

○森下委員

この大阪万博、日本万博ということになるんですけども、皆さんのお話を聞いていて思うのは、テーマが複数にわたっている。これをうまく整理していく必要があるんだろうと思います。そういう意味で私が個人的に思ってますのは、ひとつはやはりテクノロジーを使った先端医療の分野、i P s を使った再生医療だったり、あるいは国際的な観点では感染症予防、あるいはA I、こういうものを日本の医療が見えるような、モデル医療的な先端医療の一つはパビリオンで展示をする。一方でよりインフラ的なものに力を注ぐよりは、ソフトな部分、みんなが楽しめる部分が重要になると思います。やはり食、特に和食は世界文化遺産になりましたし、ミラノでも大成功を収めましたので、食を中心としたテーマというのも非常に大きいんだろうと思います。この中では大阪だけでなく、京都の野菜とか和歌山の魚とか、淡路島の農業とか、やはり関西全体のいろんなアセットを使って、ひとつのテーマとしては夢洲けれども、全体を見ると関西全体で大きなパビリオンができていて、そういったような既存のものを使うというような、仕組みがあるんじゃないかなというふうに思います。

それから運動も非常に大事なテーマで、若い方を巻き込むというふうなムーブメントがある。それこそ私は3万人でラジオ体操でギネスに挑戦するというようなテーマもいいんじゃないかと思っているんですが。出来るだけ各世代を通して、いろんな意味でみんなの思い出に残るような運動で健康になるというやり方がひとつだと思います。

最後のテーマは「ライフ」といいますか、生き方の部分だと思うんです。これは知事の試案なんかにも究極のスマートハウスマたいなものが書いておりますが、ここはやはりロボットとか、ドローン、それからウェアラブルなI T、かなりこの事業は進んでいるので、そういうものも積極的に活用していくと。

ちょっと知事に注文があります。目標がちょっと低いんじゃないかと。この年インバウンドですとおそらく5000万人は超えているんじゃないかと思っているのもっと高くていい。今年おそらく2500万を超えますので。そうすると、5000万人くらいの目標を掲げてもらって、是非、大阪、日本に人が溢れかえるようなイベントにして欲しいなと思います。その中では吉本興業の話が出ましたけども、他に関西で大きな施設としてはUS J がありますので、是非US J の方にもこういう会議に入ってもらって、そのノウハウを出してもらえないかと。私は個人的にUS J

大好きなので、できれば第ⅡUSJを是非作ってほしいと思っているんですけども。そういうのもこの万博に合わせて、機会があればと思います。

全体のテーマとしてひとつ思うのは、イノベーションの世界では、イノベーションエコシステムといわれているのですが、イノベーションが生まれて、最終的に事業になって実用化され、また新しいイノベーションを生み出す。シームレスでこれが繋がっていくのが非常に重要なんです。この万博のテーマもある意味ヘルスケア、あるいはヘルスイジングに対するエコシステムをどうやって作っていくかと。そこは子供から始まって、お年寄りになって、最終的にその次の世代へ繋がっていく。やっぱりシームレスな健康づくりというのがひとつの課題だと思いますので、いかにエコシステムとして社会全体で次世代の健康をつないでいくか。いまお年寄りの方が100歳まで健康長寿実現すればいいというのではなくて、子どもから120歳までいるし、健康寿命を延ばす、そういうふうな生活習慣に見合ったツール、そういうものに繋げるのが非常に私は大事なんだろうというふうに思います。

先ほど溝畑さんが言いましたけれども、私も大阪万博の年は8歳で、知事も同じ世代ということで、私どもの世代にとっては万博は非常に哀愁があるというか、夢をもう一度というのは、どうしても忘れられないですね。そんな意味で知事が提案したこの構想に関して血が騒ぐ、子どもにもそれをさしてやりたいなど。やはりずっと万博の思い出を共有してみなさん持っているので、是非そういう思いを日本全体の方が味わえるような2025年の万博になって欲しいと思いますし、できれば120歳くらいまでその思い出を語り継げるように、長生きで万博もまた出来ればいいんじゃないかと思っておりますので。是非、幅広い議論で万博に関しては、皆さんのご意見と一緒に合わせていきたいと思います。

○秋山座長

どうもありがとうございました。有識者の委員のみなさまからコメントいただきまして、最後に座長と副座長の方からも、少しコメントさせていただきたいと思います。先に、橋爪委員。

○橋爪委員

1970年万博の当時は小学4年生。18回会場に行き、全パビリオンを制覇。会場内は国際交流の現場でした。外国人を見れば誰かれなく握手を求め、誰かれなくサインをもらうことが、楽しみでございました。我が家は建築関係の下請け会社をしておりましたが、毎週のように日本中から知人や親戚が泊まっています、いまいう民泊なんて当時当たり前と。私の父親の会社も少しいくらかパビリオンに係わっています、学校に行くと「あのパビリオンは、うちのおやじが作ったんや」、さらには「万博、うちのおやじがやったんや」というのが、本当に子どもの自慢でした。

要は多くの人々がそれに係るという大事な現場でした。子ども時代の印象として、博覧会というのは、巨大なお祭り騒ぎであり、会場はおおいなる「祝祭の場」であると

感じました。大学院から博覧会の研究を数十年継続していますが、当時の印象は揺らぐことはありません。実は大学院時分の私の師匠が「お祭り広場」というのを概念作った先生なんですけれども、まさに先生方が世界の博覧会を調べる中で、博覧会を日本の伝統的なコンテクストにのせるのであれば、それは「祭り」であります。世界の人々が集まるあるテーマの下に集まって意見を交換し、技術を見せて、さらに前に進もうとする祭典です。主題を展開すると同時に、そういう祝祭の場であるということをお我々はもう一度、この場で確認すべきだと思います。

加えて、三点ほど短く申し上げます。まず第一に、博覧会に関しましては、イベント・オリエンテッド・ポリシーの下に構想をすすめるべきであるという点。要はイベントの開催が目的ではなくて、我々はその先にこういうことをすべきだ、するんだというミッションを持った上で、手段としての博覧会があるんだということを申し上げたい。

関連して二点目として申し上げたいのは、一点目と関連して、ライフサイエンスに関する技術や健康関連産業を伸ばしていくというミッションを大義として掲げるべきであるという点。あと長寿社会を実現するロボット関連の産業も可能性があるだろうと思います。大阪で言いますと、うめきた2期の構想とリンクします。日本全体、関西全体の産業の将来を考える上で、今回の万国博覧会を位置づけるべきだと思います。あと少子高齢化は日本の特殊事情であり、世界全体では人類が従来経験したことないほど人口が増えている中で、日本国は少子高齢化の段階を迎えている。ここで我々は新しい長寿健康社会のモデルを世界に示すということの意義を、理想ではなく、科学技術や産業面でも語る必要があります。

最後に一点。会場の計画が重要であることを確認しておきたい。想定では半年で3000万人が来場します。日割りにしますと15万人になりますが、この原案にもありますが、ピーク時は25万人。1日に15~25万人が集まる新しい都市を、半年間だけ仮設する必要があります。会場設計だけではなく、将来の土地利用も考えなければ、なかなか先へ進めないと思います。

ともあれ夢があるプロジェクトですから、ぜひ委員の皆さんと意見交換をしながら前に進めたいと思いますので、よろしくお願い致します。

○秋山座長

どうもありがとうございました。私も一つだけコメントしたいと思います。本日、有識者の委員の先生方からは、実に様々なご専門の立場から多様なご意見いただきました。これはとてもよいスタートだなと。良い万博ができるのではないかという印象を持ちました。

私はテーマに関しまして、非常にタイムリーだと思います。長寿社会のフロントランナーとしての日本で開く万博のテーマとしては素晴らしいと思います。人口の高齢化は本当にグローバルな問題です。先進国だけではなくて、これは渋谷先生のご専門でございますが。いわゆる発展途上国においては、今までは感染症が主な死亡原因で

したが、近年、死亡原因のトップの方に慢性疾患があらわれています。全ての国が高齢化しています。そういった中で高齢化はグローバルな現象ですから、万博のテーマとしては非常にふさわしいと思います。

色々コメントはありますが、今日は一点だけ言いますと、三十年くらい前、まだ日本でそれほどリハビリとかが盛んではなかった時に、お年寄りに痛いのにリハビリを薦めましたところ、「で、歩けるようになって何処に行くねん」とこう言われたそうです。行くところもないのにリハビリをしたってしょうがないという訳です。健康長寿を達成する、それはとても素晴らしいけれど、健康長寿を達成して何をやるんだということなんですね。日本では長い間、人生50年、60年という時代が続いて、いま人生90年、100年。人生が倍くらいになりました。しかも最期まで健康でということを目指しています。それが達成された時に私たちはどう生きるのか、どういう社会を作るのかということです。人生50年の生き方と人生90年、100年の生き方とは自ずと違います。キャリアもひとつではなく、二つ全く違うキャリアも可能です。長寿時代の新たな生き方、それを支える新しい社会の在り方、それを可能にする産業界の製品、サービス、システムの開発。医療や薬品だけではなく、全ての産業界が関わる必要があります。万博で健康長寿を達成した国の新しい生き方、新しい社会のあり方を提案できればよいなと思っております。

一つだけコメントさせていただきました。せつかくの機会でございますので、経済界や行政のみなさん、ご意見ございましたら、どうぞご発声をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○伊吹委員

感想が二つと、ちょっとコメントをしてみたいと思います。

言おうと思っていたことを実は先生方で全部おっしゃってしまったんですけれども。いろんな技術とかを見せていく時に、「この技術すごいよね、で、こういうこと出来るよね」ということをやるのが非常にケースとして多いんですけれども、やっぱり長く生きて、でも健康で楽しくて充実した人生を送りたいというのは、普通の人々が望んでいることだと思うので。生活シーン、その技術を使って自分たちの人生とか、生活がどう変わるのかなみたいなことを一緒に提示をしていけるといいなというのが一点です。

それからもう一点は、これから細かくテーマは議論されていくんだと思うんですけれども、大きい「健康」とか「長寿」とかというテーマの中に、さっき皆さんから「食」とか「笑い」とか、いろんなことが出ていたと思うんですけれども。日本全体で盛り上げていかなきゃいけないということは、たくさんの企業に応援してもらわなきゃいけないということなんで。その人たちが参加できるようなことを散りばめて、でも全体としては統一感があって作っていくという非常に難しい仕事にこれから皆さんと一緒にチャレンジしていくということだと思いますので、そういうことをやっていきたいというふうに思います。

三つ目は、人生のあり方にも関係するんでしょうけど、大阪はやっぱり、東京の非常にビジネスライクな社会とはちょっと違う社会だと思うので。そういう幸せな長寿・高齢の社会を送っていくときの地域のコミュニティってどういうことになるのかな、それは社会のあり方を提示するってことで、すごく難しい仕事だと思うんですけど、そういうことをまずぜひ議論していきたいなと思うんです。

最後、吉本さんの話出ていましたけれども。吉本さん、どうしても僕たち笑いと思うんですけども。片一方で吉本さんはアジアに展開しまくっているメディア企業さんなんで、この場所に来なきゃ出来ないものというのは大切なんですけど、メディアを使った発信というのも割と早い段階から一緒に考えていけたら面白いかなというふうに思いました。以上、簡単ですけど、みなさんと一緒にやっていきたいと思えますので、よろしくお願いします。

○秋山座長

どうもありがとうございます。

まだまだ他にもご意見おありになるかと思えますけれども、時間がおしておりますので、また次の機会にお願いいたします。今日は1回目でございますので、この先多くの機会でございますので、是非ご発言をお願いいたしたいと思えます。

どうもありがとうございました。

議題3は、「今後の進め方について」でございます。

それでは資料5について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、資料5をご覧ください。これは今後の検討会議での検討スケジュールをまとめさせて頂いたものです。今回の試案の検討項目は非常に多岐にわたります。限られた時間で議論を深めていただけるよう要綱第6条に基づき二つの部会、資料にございます「理念・事業展開部会」と「整備等部会」を設置することといたしました。

部会に所属する委員の皆さまにつきましては、今後、事務局で調整をさせていただき、ご多忙な委員の皆さまにご負担をかけない形を工夫しながら、柔軟に運営していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

できれば9月ごろにはいったん検討会議でいただいたご意見を踏まえて、府に置いて概案の様なものを取りまとめ、9月議会でのご議論を経て、再度検討したものを再度全体会議でご意見をいただくというようなことが出来ればと考えております。

委員のみなさまにはご多忙な中、限られた時間で集中的にご議論いただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

○秋山座長

委員のみなさまからご異論なければ、部会を設置することといたしたいと思えますがよろしいでしょうか。

○委員
異議なし

○秋山座長
ありがとうございます。それでは「理念・事業展開部会」と「整備等部会」の部会を設置することといたします。部会の進行役といたしまして、部会長であります、これまで大阪府特別顧問として万博誘致に向けて様々な助言をなさってこられました、澤田委員に理念・事業展開部会長を。また橋爪委員に整備等部会長をお願いしたいと考えておりますが、ご意見がございますでしょうか。

○委員
異議なし。

○秋山座長
ありがとうございます。それではいま指名させていただきました、両部会長、事務局で調整の上、部会の設置をお願いいたします。加えて、部会に所属する委員への連絡もお願いいたします。
時間が参りましたので、本日いただきましたご意見を踏まえまして、部会での議論、また次回以降の全体会議を進めていきたいと思っております。
本日の議事は以上で終了させていただきます。
どうもご協力ありがとうございました。
それでは事務局お願いします。

○露口副理事
本日はありがとうございました。
それでは、最後に知事からご挨拶させていただきたいと思っております。
よろしくをお願いいたします。

○松井知事
委員の皆さま方には、第1回検討会議、本当に様々なご意見をいただきましてありがとうございます。
やっぱり「健康・長寿への挑戦」というテーマでよかったのかなと思います。結局、健康・長寿への挑戦というのは、人生、要は箱に入るまで楽しむということだと思っております。まさにその楽しむ時間をしっかりつくっていける、そういう万博。そのテーマを解決できる万博にしていきたいと、こう思っています。万博の議論をするというだけで、だいたい行政の会議というのは、ほとんどみんな、難しい顔をしているんですけど。今日は、会議自体が楽しかったと。笑顔が出たと。これはまさに万博って、そ

ういものなんだなと、こう思っております。ぜひ、今日、様々ないただいたご意見をこれから非常にタイトなスケジュールですけれども、まとめてさせていただきます、まさに夢を実現する、したいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○露口副理事

それでは、知事退席させていただきます。

ありがとうございました。

最後に事務連絡をさせていただきます。

次回の全体会議ですけれども、7月29日13時頃の開会ということで予定させていただきます。具体的日時、場所につきましては、事務局の方から改めて文書にてお知らせ申し上げたいと思います。

また部会につきましては、部会長と相談をいたしまして、日程・メンバー等について調整させていただきます、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の検討会議はこれで終了でございますけれども、事務手続きのご案内がございますので、委員のみなさま方におかれましては、しばらく着席のままお待ちいただきますよう、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。